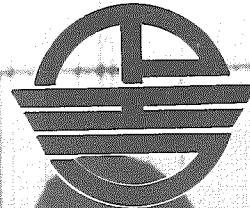


珠利原



広報あいら

昭和58年5月25日発行 No.207

○発行/姶良町・編集/庶務課

頭に文字は
入るといふ
やうに
よこす

イタソーオ

(山田小・中学校日脳予防接種)

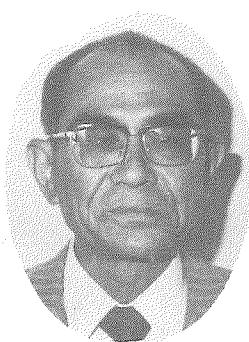
姶良町人口
(4月末現在)
男16,316人
女18,150人
計34,466人

世帯数 11,652戸

助役
収入役
西田
脇中早
功苗
氏氏を選任

五四十七日に開会された第三回田議会臨時会において、町助役、
収入役の選任について議会の同意を求める件が提案され、助役に田
中早苗氏、収入役に西脇功氏を選任された。この議会の同意を得た。

いた。——たゞいつの間出せば、山田——山田から政務を執行するに止まつた。
なあ、回議会は、田舎者に新選舉——氏を選出するのをひこへ
も回意した。



助役
田中早苗

昭和二十二年四月北山中学校教諭を振り出しに、国分、蒲生両校教諭を経て、同三十九年四月種子島高校教頭、同四十三年四月志布志高校教頭。その後、沖永良部、蒲生両校校長、県教育センター研究員、国分高校校長を歴任後同五十六年四月から五十八年三月まで鹿児島女子短期大学学生課長。九州帝大法科卒。六十二歳。



收入役
西
脇
功

昭和二十三年四月旧帖佐町役場事務吏員として入庁。同四十六年六月に建設課長に着任。同年八月から五十年五月まで総務課長。同年六月から企画課長。



社会教育主事

異人
動事

四月一日付けて職員の人事異動と新規採用職員の発令が行われた。

△建昌幼稚園教諭	中野珠美(母)	△庶務課	片牧三千代
重富保育所保母	△帖佐保育所保母	△企画課	今別府浩美
有江ミヤ子(建昌幼稚園教諭)	△帖佐保育所保母	課別當法仁	△同
(帖佐保育所保母)	重富保育所保母	染川由美	
新採用職員(四月一日付)	榎田里美	△帖佐保育所保母	
教諭	久保山いづみ	△重富保育所保母	
水道課	小瀧春美	△和田人司	
教諭	△帖佐幼稚園		



永田 健康



卷

教育行政に取り組みます

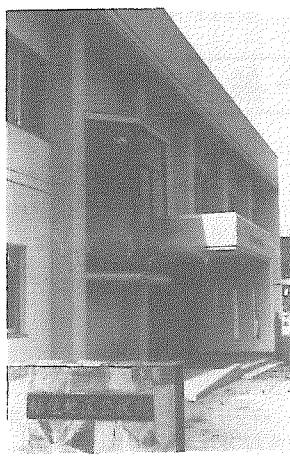
三先生が赴任

教育行政に取り組みます

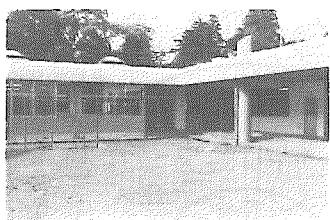
教育委員會

大蔵省資金運用部（年金）資金
の運補共建設事業のなかには、国庫は無論のこと、大蔵省資金庫
も用ひられる。この数大きい（年金）資金や簡易保険資金
の多くは、次のような事業として昭和五十七年度はような事業が完了しました。
完成写真をご覧ください。

大蔵省資金運用部（年金）資金



帖佐保育所建設



総事業費 71,540千円
融資額 29,600千円

帖佐中夜間照明施設



総事業費 15,551千円
融資額 7,700千円

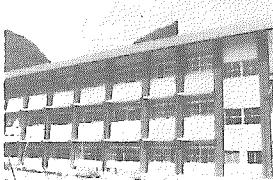
帖佐地区公民館建設

総事業費 71,975千円
融資額 33,800千円

簡易保険資金

義務教育施設整備

総事業費 237,855千円
融資額 80,700千円



▶山田小学校増築



文教施設整備

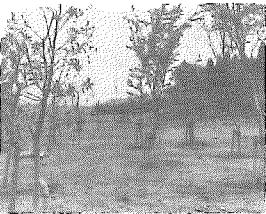
総事業費 28,830千円
融資額 15,300千円



▶重富小学校増改築
給食施設

公園緑地整備

総事業費 16,000千円
融資額 6,000千円

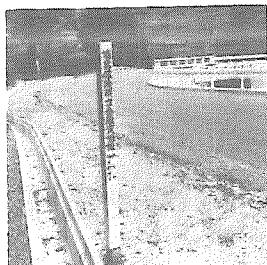


▶船津公園整備

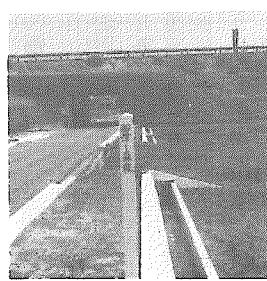
土木施設整備

総事業費 9,717千円
融資額 2,240千円

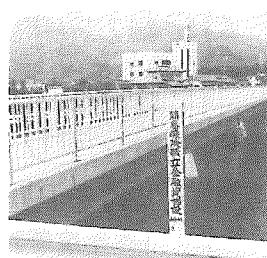
▼山花～比知屋線



▼森～船津線

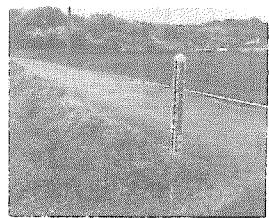


▼青木水流側道橋

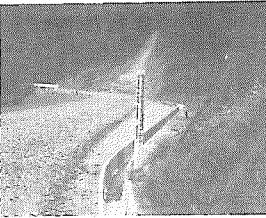


産業経済施設整備

総事業費 58,738千円
融資額 20,000千円



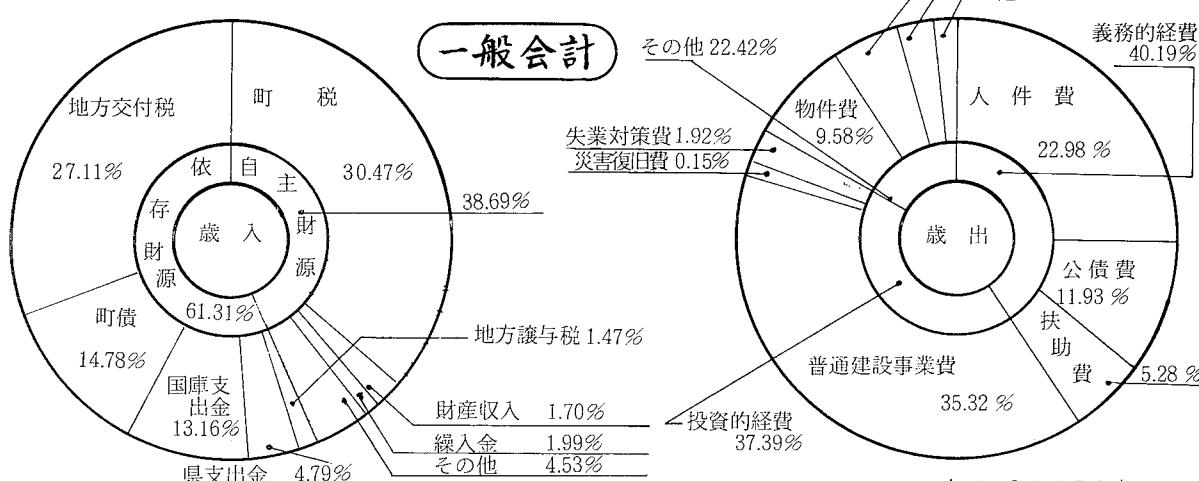
▶農道整備等



▶林道整備

町のお金はどのように使われるのでしょうか。

昭和58年度当初予算について具体的に紹介しましょう。



1人当たりの町税負担額 44,829円

人口 34,170人
(昭和58年4月1日現在)

町民税 (670,800千円) 19,631円	固定資産税 (648,700千円) 18,985円	町タバコ消費税 (92,500千円) 2,707円	電気税 (58,700千円) 1,718円	都市計画税 (42,100千円) 1,232円
その他の (19,000千円) 556円				

1人当たりの支出予算額 147,117円

土木費 (1,060,527千円) 31,037円	教育費 (936,416千円) 27,405円	総務費 (603,896千円) 17,673円	公債費 (599,861千円) 17,555円	農林水産業費 (451,577千円) 13,216円
民生費 (425,162千円) 12,442円	衛生費 (363,498千円) 10,638円	諸支出金 (170,250千円) 4,982円	消防費 (191,936千円) 5,617円	その他の (223,877千円) 6,552円

特別会計

水道事業会計

491,442千円

(対前年比 38.67%)

国民健康保険事業勘定

1,397,216千円

(対前年比 94.21%)

老人保健医療特別会計

1,307,743千円

(本年度新設)

国民健康保険施設勘定

31,999千円

(対前年比 103.64%)

おもな仕事と予算のあらまし

一般会計予算 50億2,700万円

(対前年比 102.74 %)

都市化のための生活環境づくり

公園整備事業（船津、塩釜、種馬所）	36,900千円
都市下水路整備事業	73,000千円
西部衛生処理組合負担金	
廻介処理場	61,667千円
し尿処理場	35,686千円
火葬場	7,324千円
姶良西部消防組合負担金	146,004千円
交通安全対策事業	7,945千円
防犯対策事業	1,477千円

産業経済の振興と観光開発

農業振興資金利子補給補助金	5,555千円
農地流動化奨励金補助金	2,000千円
水田利用再編対策事業	3,483千円
農村振興特別対策事業	4,795千円
畜産振興事業	13,906千円
(和牛生産素牛貸付金、町畜産振興資金ほか)	
県単土地改良事業	80,500千円
農道及び農業用施設補助事業	12,000千円
土地改良施設維持管理適正化事業	11,525千円
林業振興事業	14,586千円
造林事業	10,706千円
治山林道整備事業	84,643千円
(高牧線、飛野線、中瓶線)	
竹林改良事業	9,542千円
重富漁港建設事業	30,440千円
商工振興事業（夏まつり補助ほか）	6,662千円

香り高い教育文化の風土づくり

重富中学校校舎増改築事業	205,846千円
帖佐中学校屋内運動場改築事業	185,213千円
小・中学校管理工事事業	9,328千円
(建昌小学校擁壁、三船小学校渡廊下ほか)	
(仮称) 第二姶良小学校敷地造成事業	56,000千円
育英資金貸付事業	4,512千円
小・中学校教材備品購入事業	29,170千円
小・中学校給食事業	64,830千円
幼稚園運営費	59,744千円
(私立幼稚園就園奨励補助ほか)	
社会教育事業	72,304千円
(公民大学、地域づくり自治活動補助ほか)	
保健体育事業	12,423千円
(学校施設開放事業、住民スポーツ災害保険ほか)	

町民のやさしさのための福祉の風土づくり

重度心身障害者医療扶助事業	21,016千円
身体障害者生活圈拡大メニュー事業	805千円
老人家庭奉仕員派遣事業	13,373千円
老人敬老金	7,724千円
老人クラブ運営費補助事業	2,887千円
その他老人対策事業	15,762千円
(合同金婚式、老人里家事業、寝具リース事業ほか)	
母子福祉事業	728千円
老人福祉センター運営事業	11,262千円
児童手当給付事業	54,792千円
公立保育園運営事業	48,138千円
私立保育園運営事業	15,9808千円
保健衛生事業	73,517千円
(母子保健対策、乳幼児医療助成ほか)	
結核健康診断事業	6,445千円
霧島伝染病棟組合負担事業	2,253千円
老人保健対策事業	13,723千円
環境衛生対策事業	12,061千円
保健センター建設事業	120,200千円
公営住宅建設事業	47,6813千円
公営住宅補修事業	3,000千円

文化や産業を興す道路網の整備

道路台帳整備事業	8,000千円
町道維持補修事業	14,951千円
道路新設改良事業	26,8405千円
橋架維持事業	1,000千円
橋架新設事業	7,500千円
河川維持事業	3,440千円

「本を買つて」とお金を寄付

奇特なお年寄り

本をいっぱい読んでいた人間になって——と町内の小学校に書籍代としてお金を寄付し続けているお年寄りがいる。

このお年寄りは東原東在住の伊東キクエさん(40)。

今回は始良小学校に十万元を寄附した。五月十三日に同小学校を訪れた伊東さんは東清則教頭(50)と面会、先に寄付したお金でつくれれ子どもたちに重宝がられている「伊東文庫」とともに見学した後同文庫前で現金入りの封筒を手渡した。

「私の息子は小児マヒで、我が子のカバンを持つ姿を見ることができなかつた。息子の分まで今の



東教頭に十万元を手渡す伊東さん

子どもたちに勉強してもらいたい」と伊東さんは東教頭に訴えかけこれを受けた同教頭も「伊東さんの善意を無駄にすることはないよう十分活用させていただきます」と力強く約束した。

昭和五十五年の同小学校開校時にも伊東さんは築山を造成しておられ「緑のプレゼント」として子どもたちに喜ばれている。

昭和五十五年同小学校開校時に伊東さんは築山を造成しておられたとき、何よりもまず国民の基本的・人権を守り、人権思想を普及させることが国家の務めであるといふ運氣が高ま



六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。戦後日本が新しく生まれ変わったとき、何よりもまず国民の基本的・人権を守り、人権思想を普及させることが国家の務めであるといふ運氣が高ま

六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。

今年は、国連で世界人権宣言が採択された三十五周年にあたりま

すので、これを記念して全国の人権擁護委員は

「人権擁護委員の日」を中

心として、み

なさんとともに

つまり人権は共存するものな

です。

お互いに人権を守って明るい社

会をつくることが、私たちの願い

です。

人権擁護委員は人権の番人

6

車検 新車に限り3年に延長

車検 新車に限り3年に延長

動車の「健康診断」ともいえる「車検」の期間が延長される。また、定期点検の点検項目が簡素化され、特に六か月ごとに行なうようになっている。定期点検は、自動車の構造・装置について基礎的な技術・知識を持つユーザー(自動車の所有者)であればできることになった。

これらの変更は、「道路運送車両法」の改正に伴う関係省令の改正により実施されるもの。

自分でできる六か月点検。自動車の装置や部品などは、技術進歩のおかげで、耐久性はかなり向上しており、それにより、それができるようになった。特に六か月ごとに行なう定期点検は、自動車の構造・装置に関する基礎的な技術・知識を持っているユーザーであれば、自分でできる、という簡単なものとなる。

これが人権擁護委員による人権擁護委員制度の始まりです。人権は、人間が平和に生存する上で最も大切な権利です。

自分だけでなく、あなたも私もみんな人権が尊重されなければなりません。

○吉岡 淑(62)

○森自治会 篠原自治会

○脇岡兼慶(60)

○谷口純男(71) 自金原自治会

○森自治会

○谷口純男(71) 森自治会

○脇岡兼慶(60)

○森自治会 篠原自治会

島津家骨肉の争いと帖佐地頭たち

武士が政治を牛耳つていた時代、武家に世子がない」とは、そのままお家断絶を意味した。

領主といえども決して例外ではなかつた。いや、領王だからこそ領民の生活を双肩に背負い行政し得る。“あとつき”的存在が必要であつたといえよう。島津家の長い歴史のなかでも、例外にもれず、“あとつき”をめぐる骨肉の争いが演じられた。そのなかの一つ、十五代勝久から十六代貴久への政権交代劇のなかでも幾多の戦いがくり広げられたが、ときの帖佐地頭職たちもそれに深くかかわり合つてゐる。

島津大守と島津薩摩守実久

島津家の初祖は、惟宗弘言の子あるいは源頼朝の庶長子ともいわれる島津忠久である。

そこから発生した一族は、島津

本家だけなく、地方における「島津の殿様」として、それぞれの家を確立していった。

時代はすっと下つて、第十五代大守島津勝久は島津家を率領する器量がなく、妻の弟である出水の薩摩家五代島津薩摩守実久が専横をほしいままでしていた。しかも勝久には子がなかつたので、実久は世子になることを望み、彼に迫つて自ら守護職になろうとした。守護職は即ち、島津の殿様中の殿様」を意味する。

だが、勝久は実久の野望をしりぞけ妻と離別し、彼と袂を分かつとともに、一族中で智将の誉れ高い相州・伊作の両家当主島津忠良の嫡子虎寿丸をあとづきとし、守護職を譲ることにした。実久がこ

れを本意とせず、深く怨んで、ますます軍事力を増強していったのはいうまでもない。

帖佐地頭辺川忠直の謀反

このこうの帖佐城主は辺川忠直

だが、忠直もまた勝久に叛意を持っていた。そこで、実久に組みし

平安城並びに新城を根拠とし、鹿児島を襲おうとした。それを察知した忠良は忠直を討つため、大永六年（一五六六年）十二月四日吉田に進み、続いて七日卯の刻（午前六時）に平安城に攻めかかつた。

平安城中には、実久の一族の島津久が出来から兵を率いて忠直の応援にきていた。忠良の「主流派軍」が城を目指けて押し寄せる

のを見ゆるや、安久は鄙下を引き連れ自ら討つて出て敵を高撃に防いだ。だが、遂に忠良の部将岩元寿



平 安 城 跡

昌久の密通

大永七年（一五六七年）勝久は

大守の位を貴久（虎寿丸改め）に譲り、貴久の父・忠良を後見に据えた。忠良は、自分の新領地たる市来、伊集院、加治木、帖佐のうち、勝久の望む所を閑居の地にさ

れよ、と言つたが、勝久は忠良の旧領伊作を望んだ。

ところで、忠良により帖佐地頭に任じられていた島津昌久だった

が、疑い深い性格で、加治木地頭の伊地知重貞とともに『反主流派』実久に通じて、同年、大守貴久・後見忠良親子に反旗をひるがえした。

そこで忠良は急いで兵を起し伊地知重貞とその子重兼を攻め殺し、その勢いで帖佐地頭昌久をも攻め殺してしまった。そして新しい帖佐地頭に伊地知重辰を任じ、新城に居住させ、自身は松原海岸から船で鹿児島へと向かおうとした。

一方、帖佐から凱旋途中の忠良はまさに鹿児島へ向かわんとする船のなかで、この報を聞き、ただただ驚くばかりであった。忠良としては「勝久公までが」という思いであつたに違いない。

この知らせを聞くまで、忠良の頭の中には、帖佐・加治木の地の方に對して、実久は、忠良の守護職は即ち、島津の殿様中の殿

だが、忠直もまた勝久に叛意を持っていた。そこで、実久に組みし平安城並びに新城を根拠とし、鹿児島を襲おうとした。それを察知した忠良は忠直を討つため、大永六年（一五六六年）十二月四日吉田に進み、続いて七日卯の刻（午前六時）に平安城に攻めかかつた。

平安城中には、実久の一族の島津久が出来から兵を率いて忠直の応援にきていた。忠良の「主流派軍」が城を目指けて押し寄せる

のを見ゆるや、安久は鄙下を引き連れ自ら討つて出て敵を高撃に防いだ。だが、遂に忠良の部将岩元寿

南下し、忠良の属城伊集院城、さ



平安城跡から桜島を望む

利を生かした様々な構想がめぐらされていた。『西藩野史』ではそれを「日新公（注、忠良）加治木ニアリ普ク地ノ利ヲ察シテ以爲帖佐加治木ニ地ハ鹿児島城ノ藩籬トシテ要枢ノ地ナリ一旦職譲ニ起ルトキハ水陸并ヒススンテげい府タモチ難シ還チ忠兼公（注、勝久）ニスハメテ居ヲ愛ニ移サハ勢相助ケ長久ノ計ナルベシト船ヲ發シ……」と記している。帖佐・加治木の両地は鹿児島に近く、要枢の地であり、もしこことあるときに、ここに賊が起これば鹿児島が危ない。それで伊作にいる勝久をここに移し、鹿児島と相助けてゆけば

未永く安泰である」と忠良は思つた——ということである。
事情が変わつてきた忠良は、すさま船を捨て陸路をとり、我が子貴久の安否を氣づかいながら自分の居城田布施城へと帰り着いた。その後、貴久は伊作に行き、勝久は久に謁見し、大守の位を放棄にした。それに乗じた実久は、勝久を再び大守に復させたが、そのとき勝久は、一度貴久に譲った島津家の宝器を返してくれと要求している。もちろんこれは忠良に「義を忘れた者には返せぬ。強いて取りたくば刀の柄に手をかけて取れ」と一蹴されている。

忠良・貴久親子は天文五年（一五三七）五月から十一月にかけて伊集院・神殿・長崎・石谷の各城を次々に攻略、翌年二月実久軍を川辺へ追い落とし、遂に鹿児島へ入った。城下の者は大喜びで勝利軍を迎えたという、このとき貴久はまだ二十四歳であった。

その後、実久は日向・太隅方面の北郷・肝付・薩摩氏らを誘い巻き返しを図ったが、勝負の女神はついに実久に微笑んでくれることなく、天文八年（一五四〇年）三

勝久と実久の最後

権山幸久らの有力城主が両者の和解を図ったが失敗に終わっているところが、それから七年後の天文四年（一五三六年）になつて局面は急転する。勝久の家臣團が忠奸兩派に分裂し、それに伴い勝久と実久が交戦状態に入ったからである。この仲間割れにより忠良の戦略的立場は必然有利になった。

そして、この年勝久は実久と谷山で戦い敗れている。勝久は根占に走り、さらにときの帖佐領主郡答院重武に頼つたが、それでも安心できず、吉松の北原氏、ついで庄内（郡城）の北郷氏をたずねた。最後は母方の実家大友氏の庇護を求めて豊後へ行つたが、沖涙といふところで七十一歳の生涯をさび

月 製局においては、貴乞との単位に
大敗し、ついに和を乞い出水に引き
きこもつた。こうして「あとつき
問題」に端を発した島津一族の骨
肉の争いは終わりを告げた。

そして忠良・貴久の血は、義久
義弘・歳久へと脈々と流れ繼がれ
その大守たちによって、名門島津
家の名が確固たるものになつてい
つたのである。

あとがき

様々な記録が歴史の雄弁な語り部であることに間違いはないのだが、その記録の陰に“眞実”が隠されていることが往々にしてある。島津大守にとっては敵役に回ってしまった感の強い歴代の帖佐地頭たちではあるが、彼らの「本心」までは私たちは知る術がない。だが、彼らは現在私たちの住むこの地で、彼らなりの歴史をつくりこなす。同じように見ると、同じ事象を見ることで、同じように見え、同じように思える。

編大
集中

あいらちよう

町外の人には「始良町」といふよりも「帖佐」「重富」といった方が通りがよい場合が多い。

「帖佐」「重富」が旧町村名として長い間人々に慣れ親しまれ続けてきたことがその大きな要因ではあうが、始良町のことをよく理解してくれていない人が多い事実も否めない。それは今でも「重富（あるいは帖佐）は町か村か」とトンチンカンな質問をする人がいるということからもうかがえる、「始良町の影の薄さ」を考えるとき曾於郡大隅町を引き合いに出せば理解し易い。大隅町も県内屈指の大きなまちではあるのだが、「始良町」と呼ばれる場合が多い。

両町の共通点をあげてみると、いずれも(1)合併して成立した町である点。(2)町名を冠した駅がない点。(3)町名と郡名あるいは半島名などが同じである点、などがあげられる。(1)、(2)については今さら言うに及ばないが、(3)について少し説明を加えてみたい。

例えは他のまちの名を呼ぶとき我々は「市」「町」「村」といふめど行政上の単位までは付けない。」と言ふに及ばないが、「始良」だけでは「始良郡」のこ

町外の人には「始良町」といふよりも「帖佐」「重富」といった方が通りがよい場合が多い。

「帖佐」「重富」が旧町村名として長い間人々に慣れ親しまれ続けてきたことがその大きな要因ではあうが、始良町のことをよく理解してくれていない人が多い事実も否めない。それは今でも「重富（あるいは帖佐）は町か村か」とトンチンカンな質問をする人がいるということからもうかがえる、「始良町の影の薄さ」を考えるとき曾於郡大隅町を引き合いに出せば理解し易い。大隅町も県内屈指の大きなまちではあるのだが、「始良町」と呼ばれる場合が多い。

両町の共通点をあげてみると、いずれも(1)合併して成立した町である点。(2)町名を冠した駅がない点。(3)町名と郡名あるいは半島名などが同じである点、などがあげられる。(1)、(2)については今さら言うに及ばないが、「始良」について少しだけ説明を加えてみたい。

例えは他のまちの名を呼ぶとき我々は「市」「町」「村」といふめど行政上の単位までは付けない。」と言ふに及ばないが、「始良」だけでは「始良郡」のこ

町外の人には「始良町」といふよりも「帖佐」「重富」といった方が通りがよい場合が多い。

「帖佐」「重富」が旧町村名として長い間人々に慣れ親しまれ続けてきたことがその大きな要因ではあうが、始良町のことをよく理解してくれていない人が多い事実も否めない。それは今でも「重富（あるいは帖佐）は町か村か」とトンチンカンな質問をする人がいるということからもうかがえる、「始良町の影の薄さ」を考えるとき曾於郡大隅町を引き合いに出せば理解し易い。大隅町も県内屈指の大きなまちではあるのだが、「始良町」と呼ばれる場合が多い。

両町の共通点をあげてみると、いずれも(1)合併して成立した町である点。(2)町名を冠した駅がない点。(3)町名と郡名あるいは半島名などが同じである点、などがあげられる。(1)、(2)については今さら言うに及ばないが、「始良」について少しだけ説明を加えてみたい。

例えは他のまちの名を呼ぶとき我々は「市」「町」「村」といふめど行政上の単位までは付けない。」と言ふに及ばないが、「始良」だけでは「始良郡」のこ



国土利用計画法

められた「国土利
十九年十二月に定
法律で定められて
います。これは、昭和四

土地を売買する
場合、土地取引の
当事者（譲受人、
譲渡人）は県知事
に届け出で、県知
事の勧告に従つて
取引をするように
法律で定められて
います。

九年目を迎えていますが、特に山
林等の無届け土地取引による法
違反が見受けられます。

詳細につい

地の面積が都市計画区域内（旧重
富村、帖佐町）では、五千平方メー
（五反強）以上、その他の区域で
は一万平方メートル（一町強）以上の場
合となつており、届出は、町を経
由して県へ提出することになつて
いますので、売買契約を結ぶ前に
必ず届け出してください。

この法律が定められて、すでに
あります。

土地売買には届出が必要

違反者には罰則も

大都市の給与生活者、いわゆる
サラリーマンの家庭では、職場と
家庭がまったく分離しています。
父親は朝かなり早く家を出て、会
社、官庁、銀行、学校、研究所な
どに通い、夜になってから帰宅し
ます。子どもも父親との接觸時間
は少なく、子どもは父親の働いて
いる姿を知りません。父親の存在
が希薄になることもあります。

これに対して農業、牧畜業、漁
業、それに都市の自営業などの家
庭では、父親が子どもから見える所
にいて、働いています。

大人の男性の行動には生産に関
係、それに都市の自営業などの家
庭では、父親が子どもから見える所
では、父親が子どもから見える所
にいて、働いています。

大人が働いている姿を見ること
で、桶屋さんなどで、大きなお風
呂の桶が手際よく作られている店がたくさんあ
ります。豆腐屋さん、馬具屋さ
ん、桶屋さんなどで、大きなお風
呂の桶が手際よく作られていくの
を学校の帰りに立ち止まって見て
いました。いまの都会の子どもで
いたいやき屋さんくらいでしょう。

たいたいやき屋さんくらいでしょ

う。食事をしたりテ
レビを見たり、趣味のことをやつ
ているのは後者の場合です。都市
は子どものころから東京に住んで
います。昭和初期には、まだ町
に打ち込んでいた姿は、将来そ

の給与生活者の家庭に育った子ど
もは、父親の一部分しか見ていな
いことになります。

ですが、昭和初期には、まだ町
に物を作っている店がたくさんあ
ります。豆腐屋さん、馬具屋さ
んなど、大きなお風
呂などに、仕事のおもしろい点、
苦しい点などを明るい調子で子ど
もに話してください。



父

親

家にいることの多い家庭

詫 摩 武 俊

与しているときと、そうでないと
を子どもは好みます。そこには、
きとがあります。食事をしたりテ
レビを見たり、趣味のことをやつ
ているのは後者の場合です。都市
は子どものころから東京に住んで
います。昭和初期には、まだ町
に物を作っている店がたくさんあ
ります。豆腐屋さん、馬具屋さ
んなど、大きなお風
呂などに、仕事のおもしろい点、
苦しい点などを明るい調子で子ど
もに話してください。

一方、このような家庭では、生
きとがあります。食事をしたりテ
レビを見たり、趣味のことをやつ
ていているときには見ること
のできない真剣さがあります。私
は子どものころから東京に住んで
います。昭和初期には、まだ町
に物を作っている店がたくさんあ
ります。豆腐屋さん、馬具屋さ
んなど、大きなお風
呂などに、仕事のおもしろい点、
苦しい点などを明るい調子で子ど
もに話してください。

場経営者の家庭では、子どもは父
親の働いている姿も、くつろいで
いる姿も見ています。それだけに
親から直接学ぶことも多いので
す。

自営の商家、農家、小規模の工
場経営者の家庭では、子どもは父
親の働いている姿も、くつろいで
いる姿も見ています。それだけに
親から直接学ぶことも多いので
す。

一方、このような家庭では、生
きとがあります。食事をしたりテ
レビを見たり、趣味のことをやつ
ていているときには見ること
のできない真剣さがあります。私
は子どものころから東京に住んで
います。昭和初期には、まだ町
に物を作っている店がたくさんあ
ります。豆腐屋さん、馬具屋さ
んなど、大きなお風
呂などに、仕事のおもしろい点、
苦しい点などを明るい調子で子ど
もに話してください。